

皮膚ボディイメージ評価尺度 Cutaneous Body Image Scale (CBIS)

日本語版の作成

檜垣 祐子

東京女子医科大学附属女性生涯健康センター

目的・背景

皮膚は、对人的、社会的コミュニケーションの媒体として重要な役割を果たし、皮膚の外見に関わる問題は周囲との人間関係にさまざまな影響を及ぼしている。

自分自身の体や外見についての内部からの見方をボディイメージという。このボディイメージの形成に皮膚は重要な役割を果たす。他人が自分を見るように自分が自分自身を見ることはなく、多くの人にとって自分の身体に関しては否定的な感情を持ちやすい。

ボディイメージの評価には、妥当性が評価された自記式尺度を用いて、その回答を解析するのが一般的であり、欧米ではいくつかの評価尺度が考案されている。Gupta らは2004年に皮膚のボディイメージの評価尺度 Cutaneous body Image Scale(CBIS)を考案し、一般人を対象に計量心理学的検討を行い、その妥当性を確認した。CBISは皮膚全体、顔の皮膚、毛髪、爪の外見についての7項目の質問からなる比較的簡便な尺度で、回答者の負担が軽い。そこで今回、このCBISについて、原作者の許可を得て、言葉の同義性が保たれた日本語版を作成し、その妥当性について検討することとした。

結果・考察

CBIS 日本語版への翻訳は forward-back translation 法により行なった。順翻訳は日本語を母国語とする6名が、6つの日本語版を作成したのち、討議のうえ1つの順翻訳版にまとめた。次に英語を母国語とする逆翻訳者2名により、それぞれ逆翻訳を作成し、2つの逆翻訳について、英語版との言葉の同義性を原作者に照会した。問題のある箇所については、順翻訳、逆翻訳を繰り返して、言葉の同義性が保たれたCBIS日本語版(暫定版)を作成した。不明確な表現や文化的に問題のある項目の修正のため、作成した日本語版(暫定版)について、一般人、皮膚疾患患者各々5名に施行したが、特に問題となる項目はなかった。得られた日本語版(暫定版)について、計量心理学的検討を行った。一般人および皮膚疾患患者からCBISへの回答を得、現在解析を進めているところである。

すでに解析した患者群50人に限定した結果を以下に述べると、50人の年齢は16歳から75歳、平均40歳で、性別は女性37人、男性13人であった。信頼性については、cronbach係数は0.84と高い信頼性が示唆された。

構造妥当性(construct validity)については得られたCBISスコア(7項目の平均得点、低いほどボディイメージはネガティブ)につき、以下の仮説を検証した。

年齢と逆相関 男性 > 女性 結婚、教育の違いによる差がない。その結果、CBIS スコアと年齢とは有意な相関は見られなかった。CBIS スコアは全体で 3.33、女性は 3.03、男性は 4.16 と、女性の方が低かった ($p < 0.05$)。婚姻状況と CBIS スコアとの関連は、未婚者が 3.23、既婚者が 3.41 で両者間に統計学的な有意差はなかった。最終学歴については大学卒 3.63、それ以外 3.98 で、両者間に統計学的な有意差はなかった。

CBIS 日本語版の妥当性が十分確認された場合、その活用法としては、まず外見の変化を伴う皮膚疾患について、患者のボディーイメージへの影響を把握し、その改善をめざした治療を選択するための手段のひとつとなると思われる。従って治療アウトカム指標の 1 つとしてボディーイメージの評価を行う際に用いることができる。さらにボディーイメージの障害が中心的な問題となる身体醜形障害では、その症状の評価、治療の指標として CBIS を用いると思われる。また CBIS は広く一般人も対象となるため、化粧などの心理的効果の評価にも利用できるのではないかと予想される。

このように CBIS は皮膚のボディーイメージをめぐるさまざまな課題に広く用いることができ、その有用性が高いことが予想され、皮膚のボディーイメージ研究に大きく役立つものと考えている。